

開港横浜で生まれた仏蘭西瓦

— ジェラルール瓦 —

2021.11.09 森 彩子

はじめに

1859年（安政6年）、日米修好通商条約をもとに横浜は開港した。日本の近代化の窓口となった開港期の横浜で、日本最初の西洋瓦がフランス人、A. ジェラルールによって製造・販売された。新しい街並みの主役となった洋風建築を特徴づけたものは、日本になかった煉瓦や西洋瓦などの建設材料であった。その瓦は、製造者名に因み、「ジェラルール瓦」と呼ばれている。

しかし、文明開化の象徴の一つと言われたジェラルール瓦の製造は20年足らずで終わった。そして、日本の瓦産業の歴史にもその記録を留められることはなかった。

関東大震災や第二次世界大戦の荒廃のなかで、ジェラルール瓦を使用した建物は失われ、文字通り瓦礫と化し、人々の記憶からも忘れ去られてしまったからである。

ここでは、「ジェラルール瓦」とはどのようなものであったのかを整理し、更に

その瓦が日本の伝統的瓦製造にもたらした影響について考察することにしたい。



(横浜都市発展記念館 2005 転載)

実業家 アルフレッド・ジェラルール

(1837～1915)

横浜での事業：

- ① 雑貨商 ② 船舶給水事業

明治初年に山手居留地77、78番地（現在の元町公園）で、山手の湧水を利用した船舶給水事業を営む。

ヨコハマ・ウォーターと呼ばれたこの水は非常に良質で、赤道を越えても腐ることはない、と当時の船乗りの間では評判だったという。



A.ジェラルール肖像写真

(左：来日当時 右：帰国時)

(横浜都市発展記念館 2005 転載)

③ フランス瓦製造

ジェラルールは、西洋瓦と煉瓦の製造工場を設立し、日本で初めてのフランス瓦の製造に乗り出す。

そこで製造される瓦と煉瓦は「ジェラルール瓦」「フランス瓦」と呼ばれ、山手居留地の居留外国人の家や山下町の商館等の建築に広く用いられた。

ジェラルールの瓦工場

ジェラルールの瓦工場・水屋敷は、横浜居留地から掘割川、元町を隔てた山手にあった。ジェラルール工場の様子は、『日本絵入商人録』に収録された銅版画に見ることが出来るが、最新設備が導入されていた。職人の手作業による成型が一般的であった当時の日本国内において、ジェラルールの工場では極めて早い時期に瓦の機械製造が実現していたのである。

1. ジェラルール瓦はどのような瓦か

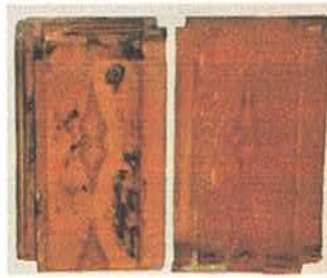
大きく三つの形式がある（Ⅰ型・Ⅱ型・Ⅲ型）。その裏面にジェラルールの名前と製造年の刻印が捺されているのが特徴である。

ジェラルール瓦がまず初めに使われたのは、横浜外国人居留地とその周辺である。さらに、近代建築物や公共施設（学校や軍の施設）の屋根を飾った。

ⅠA型表裏



Ⅱ型表裏



Ⅲ型表裏



2. ジェラルール瓦の供給先と遺物

どのような建物にジェラルール瓦は葺かれていたのか。

関東大震災後、崩壊した外国人住居、近代建築物跡などから多くのジェラルール瓦が収集されたと言われている。資料をたよりに、その供給先を探る。

- ・横浜山手の個人住宅、教会、学校、各国領事館、ホテルなど
- ・湘南、箱根の銀行、教会、住宅など
- ・佐倉連隊兵舎、工部大学校など明治政府による大規模な公共施設型西洋建築

3. ジェラール瓦が日本の瓦製造に与えた影響

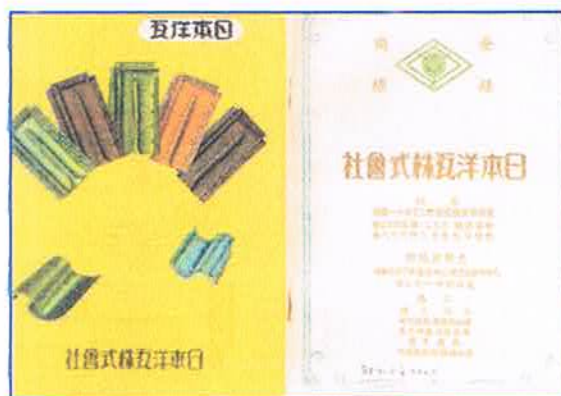
- ①ジェラール瓦は明治末には製造されなくなったが、その後の日本における洋瓦製造にどのような影響を及ぼしたのだろうか。
 - ②その技術はどこかに継承されたのだろうか。
 - ③ジェラール瓦の名前と技術は、伝統的瓦産業の地には伝承すらせずに断絶してしまっただろうか。
- これらの問いに対する答えを探してみたい。

・日本洋瓦の誕生

横浜でのフランス瓦は、明治の初期に始まったが、大正時代に入ると、全く別の経路でフランス瓦の製造が愛知県三河の地で始まる。

1917年（大正6）、愛知県碧海郡（現碧南市）と高浜町（現高浜市）に、一種の国策会社として日本洋瓦株式会社が設立された。

1933年（昭和8）発行の同社カタログの会社概要によると、「日本で初めて洋瓦を製造した」と説明してある。



日本洋瓦株式会社カタログ

（かわら美術館所蔵）

これを見る限り、横浜のジェラール瓦の事は知らなかったと思われるのである。そして、1886年（明治19）に横浜で発行された『絵入商人録』など、すでにフランス瓦に関する情報があったにもかかわらず、一からフランス瓦の製造を始めているのである。因みに、わが国の一般の瓦業者が近代設備を導入するのは、ジェラールに遅れること50年経ってからである。

- ・また、1927年（昭和2）発行の瓦関係の専門書（『日本瓦業総覧』）では、日本全国の瓦産地の歴史と現状が語られているのに、横浜のジェラール瓦のことは一行も書かれていない。
- ・さらに、近江八幡市にある「かわらミュージアム」の学芸員は「ジェラール瓦という名前さえ初めて聞いた」と言う。瓦博物館の学芸員がその名前さえ知らないのである。その学芸員は、最後に「明治初年に作られたのであれば、ジェラール瓦が日本の平板瓦の原型でしょうかね」と付け加えた。

ことほど左様に、ジェラール瓦の名前と技術は伝統的瓦産業の地には伝承すらされなかった。

・和製ジェラール瓦の出現

ジェラール瓦登場からわずか4年後の1873年（明治6）には早くも日本人職人が作ったフランス瓦が、東京上野で開催された「第一回内国勸業博覧会」に出品されている。出品者の殆どが東京の本所・深川などの瓦職人だが、陶磁器製造の本場である愛知の瀬戸からも出品されていることに驚かされる。

1880年（明治13）、ジェラール工場は横浜で発行された英字新聞・ヘラルド紙に「ジェラール瓦の偽物が出回っているので注意するように」という偽物注意広告を出している。このような広告を出した背景には、洋館の普及に伴い、ブランド品としてのジェラール瓦がよく知られていたことを意味している。

和製ジェラール木製押型発見

2007年（平成19）、埼玉県深谷市で、和製ジェラールを成形するための木製の押型が発見された。江戸時代からの深谷の瓦製造業・植竹家の所蔵である。

明治20年、実業家渋沢栄一らによって日本煉瓦製造会社が現在の深谷市に設立された。

製造された煉瓦は日本銀行や東京駅、富岡製糸場などの国内の大規模な煉瓦造建築に用いられ、横浜でも二代目横浜駅などに使用された。伝統的な深谷瓦の製造業者は、瓦製造の傍ら日本煉瓦製造株式会社に白地（焼成前）の煉瓦を納めていたらしい。

1877年（明治10）に内国勸業博覧会に和製ジェラールが出品されたということは、少なくとも明治末位までは作られていたと思われ、フランス瓦を出品した東京や深谷や瀬戸地方の生産者も、新しい時代のニーズを先取りし工夫を加えながら和製ジェラールを生産していたと思われる。

A. GERARD'S
STEAM
TILE AND BRICK WORKS.
HONMURA, YOKOHAMA.

THE MANUFACTURE of FRENCH
TILES in Yokohama having been
successfully established, and in operation for
several years past, fraudulent imitations
(but of very inferior quality) are being
palmed off on purchasers as genuine. The
public is therefore warned against buying
the spurious hand-made tiles, fraudulently
marked with the name of 'A. GERARD,'
and are requested to

PURCHASE DIRECT
AT THE
Sole Manufactory in Yokohama,
OR AT THE
Office of the Undersigned.

By this means they will insure the genuine
article, made by expensive and powerful
machinery, expressly imported from France
for the purpose.

Prices may be ascertained at the Works,
where samples of the Tile, Brick, and other
Sole productions may be seen; or at the
Office of the undersigned.

J. REYNAUD,
No. 157,
Yokohama, Sept. 4, 1880.

「偽物注意」の広告
(岡本 2002より転載)



和製ジェラール押型(植竹氏所蔵)
(筆者撮影)

ジェラール瓦の木製押型が発見された深谷の地で、いつ頃まで和製ジェラールが作られていたのかは分からない。

しかし、横浜で明治初期に生まれたジェラール瓦は日本の伝統的瓦産業に和製ジェラールという形で影響を及ぼしたことになる。

おわりに

①ジェラール工場は、横須賀製鉄所や富岡製糸場のような国営工場ではなく、一人の外国人事業者が興した小さな工場であった。そこで製造されたフランス瓦は、横浜居留地をはじめ、東京方面や千葉県の近代的建物の屋根を飾った。

②ジェラール工場は、横浜で明治期の早い段階から蒸気機関による機械製造を実現しながら、その技術をどこにも正当に継承することなく、明治の終わりと共に終りを迎えてしまった。次に愛知県三河の地でおこった日本の洋瓦製造とは断絶しているようにみえる。

③かわら博物館の学芸員が「ジェラール瓦」を知らなかったように、ジェラール瓦の正当な歴史的位置づけはなされていないように思える。

しかし、日本人製造の瓦に見られる在来の瓦産業への影響など、日本近代の建築産業の歴史に確かな足跡を残している、と言えるのである。

主な 参考文献：

- 青木祐介 「アルフレッド・ジェラールと瓦工場」横浜市都市発展記念館紀要第5号 2003
伊藤三千雄 「日本建築学会論文報告書」第66号 1960
上原真人 『歴史発掘 11 瓦を読む』講談社 1997
岡本東三 「横浜で生まれた仏蘭西瓦」横浜市歴史博物館紀要 第6号 2002
駒井鋼之助 『かわら日本史』雄山閣 1981
西堀 昭 「幕末・明治期の横浜のフランス人企業家」横浜経営研究第21巻 2000
藤原勉・渡辺宏 『和瓦のはなし』鹿島出版会 1990
堀 勇良 「ジェラールの瓦と煉瓦」開港のひろば第11号 横浜市開港資料館
神奈川県埋蔵文化財センター 「横浜開港の考古学」2009
神奈川県立歴史博物館 「彩色立面図に見る日本の近代建築」図録 2010
国立歴史民俗博物館 「佐倉城跡発掘調査報告」第1分冊、第2分冊 2004
伝統技法研究会 『伝統技法』 2011
横浜開港資料館 『横浜もののはじめ考』 1988
『よこはま人物伝—歴史を彩った50人—』1995
横浜都市発展記念館 「地中に眠る都市の記憶—横浜生まれの西洋瓦—」2005